

付 表

- I. 個人別学習困難点の面接票
- II. アンケート調査による中高年訓練生の学習困難点
- III. 中高年訓練生の教え方工夫への要望

表1

NAME T. T 氏	KŌ 長野技専	KUMI 機 械	TOSHI 5 6	GAKUREKI 旧高小	No	
GAKUSHU KONNAN					SHOKUREKI	
• 上の学校を出ていない者にとっては、方程式、記号、ローマ字をたくさん使うのは非常に重荷である。“これはなんだ”と考えていると後のことが全々頭に入らない。 • 力学、機械材料などは直接、実務にかかわりがない。役に立たないと思うから、いっこうに頭に入らない。機械工作法は直結していい。これらのことは覚えておいて損ということはないがこれから再び社会にでて必要にせまられることはないだろう。 • 事務畑をたどってきたので、機械というものをこの学校にきてはじめてふれてみた。最初は気持の立遅れでこわごわわわっていた。1つ製品を作ってみたところから、なじみやすくなって、困ることはなくなった。 • 年が年であるから、先生が一度説明したことを聞きかえしにくい。同じ事を2度も3度も聞くと、“年がいいもなく”こんな事を聞いて”と言われるような気持が働らく。 • 大きな失敗はないが、ネジを切るとき、バイトの使い方がわからなくて、削りすぎたことがある。こんなとき、“また、先生に見られたらいやだな”と思う。同年輩の人ならともかく、若い人の前であまりみっともないところを見せたくない。また、若い人に敗けたくない気持もある。ともかく、ヘマをやったところという気持が先だっている。だから、思うことがおもしろくない。 • やっぱり年でおぼえにくい。忘れるのが多い。実習のときも、機械につく前に切り込みはいくら、送りはいくらと聞いている。その時はわかったような気持になるが、いざ機械についてやるとなると、“切り込みはいくらだったかな？”ということになる。 • 実習場はとても暑く、病気がかりで身体がまいいっていたので、こたえた。 • 眼が悪いことが随分とこたえた。実習中、寸法をみようとしてもなかなか見れない。汗をかくとよけいけない。メガネがすべらないように、常にメガネをふいて、とめておくしかない。 • 重いものをあつかうことはそれほどない。ただ、四ツメチャックをはずすときだけはこまった。肉体的につかれというよりも神経がつかれる。 • 他の人に遅れまいという気持が強い。失敗したときなど、新しい材料をもらってやりなおすが、なんとか追いつこうとする気持ばかりが強くなり、あせることが多い。					SEIKATSU JŌKYO	
					V.T ENO YŌBŌ	
					機械科3ヶ月コースの人達は気の毒である。新らたに機械をやる人には無理。企業の方は機械科を修了したということのみから、その人達はたいへんであろう。結局、本人がその職場にいつづらくなくてやめることになる。	

質 問 項 目		回 答
全般的な 学習上の 苦 勞	㉔ 訓練上、学ぶことになにかと苦勞している。	(訓練受講上の苦勞)
	㉔ 先生方に学習上の苦勞をへらすために指導の工夫をしてもらいたい点がある。	(中高年指導の工夫)
	① 仕事をおぼえる上で、手指や視力のおとろえなどのために苦勞している。	(機能低下と学習上の苦勞)
	⑬ 日頃の訓練で、疲れを感じることが多い。	(疲勞の訴え)
実技場面	③ 今までの経験が現在の訓練に結びついていてるので仕事がおぼえやすい。	(学習の転移)
	② 前職の経験が現在の訓練上の仕事をおぼえるのに邪魔になる。	(学習干渉)
	⑫ 先生に教えられたこと以上のことを自分でやろうとする傾向がある。	(作業への積極性)
	⑪ ガンコな点があり、教師の指導のとおり作業をやらないう傾向がある。	(思考の固さ)
	⑦ 作業に対して、強い緊張を感じたり、不安を抱くことがある。	(過度の緊張)
	⑨ 同年代グループだと安心して作業できるが、若い者の中ではかたくなる。	(同一年齢グループでの安心)
	②② 若年者と中高年者との混合訓練は不適當である。	(混合訓練の不適當)
	⑧ 失敗などして一度つまづくと心のバランスをくずし、おろおろすることがある。	(失敗による判断欠如)
	⑭ 実習や試験で自分のできばえがとてきめになる。	(自己評価の傾向)
	⑮ 作業のできばえについてすぐに知らせてもらいたい。	(即KRの必要性)
	⑬ 質問をするのはどうもいやである。	(質問の嫌悪性)
	⑩ 数学など長期間、学習をしていなかった内容には不安が大きい。	(学習離れと不安)
	④ 公式・記号をおぼえるのがにがてである。	(記憶力の欠如)
	⑥ 専門用語など納得がいかないと前に進む気がしない。	(専門用語への固執)
	⑤ 学科のとき、その場でわからなかったつもりでも、その後の試験で若い者より悪い。	(理解力)
レディネス	⑬ 訓練には熱心にとりくんでいる。	(訓練への熱意)
	②① 訓練を受ける前の、学力など準備不足を感じている。	(レディネスの欠如)
	②⑤ 生活の心配などで落着いて訓練を受けてもらえない。	(学習への生活不安定の影響)
適 性	⑬ 現在の訓練職種は自分に適していると思う。	(訓練職種への適合性)
	⑮ 自分の選んだ訓練職種に好意をもてない。	(訓練職種への関心)
そ の 他	②⑧ 前職と現在の訓練での仕事となんら関係はない。	(前職との関連性)
	②⑥ 職業訓練に入ってよかったと思っている。	(訓練に入ってからでの満足)

表 2

NAME	KŌ	KUMI	TOSHI	GAKUREKI
M . K 氏	長野技専	建 築	4 9	旧高小

No	
----	--

GAKUSHU KONNAN ・訓練校に入ってみてはじめてのうちはよかったが、自分の子供のような訓練生と話があわなくて、7月頃にはやめようかと思った。戦中の学校教育を受けてきた者として、今の学校教育を受けた人とは全く違うので鬱屈気に圧倒されてしまった。若い訓練生はふざけ半分で飛んで歩いている。先生が注意してもいうことをきかない。 製図のときなど、自分はメガネを二つも持ってきて一心にやろうとしているのに、周囲でわいわいやられると、頭がガンガンしてしまう。なぐりつけてやりたいが、そうもいかない。こんなことが続いてストレスが高まった。 ・製図では若い者より遅れる。先生が2時間というものが4～5時間かかってしまう。線引きがうまくいかない。15分も続けてやっていると目が痛くなる。 ・のみこみは年をとるとやはりダメである。 ・仕事自体は180度転換したのであるが、わからないことはなし、実感はつかめてきた。 ・数学、力学は全々わからない。学科はできないなら、できないでよいと思っている。実技だけは頭にたたきこんでいきたい。 ・実技時間では、先生の言うことはノートに1から10まで書きこんでいる。実技のときはこれを見てもいかに覚えればわかる。 ・建築の基礎段階で、スミつけがわからなかった。今までサシガネを持ったことがなかった。年のために、サシガネのあつかいにはたいへん苦労した。目ガネをかけることには、サシガネの目盛がわからなかったのでこまった。夏は汗が目に入ってメガネをふくことも多くなる。そのうちにクシャクシャして……のどがかわいてくる。	SHOKUREKI ＜紡績機械＞→＜整備保全＞ 技術関係 SEIKATSU JOKYŌ 繊維関係の技術屋として25年勤めてきたがオイルショックで会社が傾き、最後まで技術指導で残ったが倒産、失業した。 V.T E NO YŌBŌ 学校に入っすぐは勉強の進むペースを遅らせてもらって、ある程度勉強するコツをつかめてからペースをあげてほしい。
---	--

	質 問 項 目	回 答
全般的な 学習上の 苦 勞	⑳ 訓練上、学ぶこととでなにかと苦勞している。	㊶ N
	㉔ 先生方に学習上の苦勞をへらすために指導の工夫をしてもらいたい点がある。	Y ㊶
	㉑ ① 仕事を覚ええる上で、手指や視力のおとろえなどのために苦勞している。	㊶ N
	⑱ ② 日頃の訓練で、疲れを感じることが多い。	Y ㊶
実技場面	③ 今までの経験が現在の訓練に結びついていてるので仕事がおおぼえやすい。	Y ㊶
	② 前職の経験が現在の訓練上の仕事をおおえらるのに邪魔になる。	Y ㊶
	⑫ 先生に教えられたこと以上のことを自分でやろうとする傾向がある。	Y ㊶
	⑪ ガンコな点があり、教師の指導のとおり作業をやらないう傾向がある。	Y ㊶
	⑦ 作業に対して、強い緊張を感じたり、不安を抱くことがある。	㊶ N
	⑨ 同年輩グループだと安心して作業できるが、若い者の中ではかたくなる。	㊶ N
	㉒ 若年者と中高年者との混合訓練は不適當である。	㊶ N
	⑧ 失敗などして一度つまづくと心のバランスをくずし、おろおろすることがある。	㊶ N
	⑭ 実習や試験で自分のできばえがとても気になる。	㊶ N
	⑮ 作業のできばえについてすぐに知らせてもらいたい。	㊶ N
	⑬ 質問をするのはどうもいやである。	Y ㊶
	⑩ 数学など長期間、学習をしていなかった内容には不安が大きい。	㊶ N
	④ 公式・記号をおおえらるのががてである。	Y ㊶
	⑥ 専門用語など納得がいかないと前に進む気がしない。	㊶ N
学科場面	⑤ 学科のとき、その場ではわかったつもりでも、その後の試験で若い者より悪い。	㊶ N
	⑬ 訓練には熱心にとりくんでいる。	㊶ N
レディネス	㉑ 訓練を受ける前の、学力など準備不足を感じている。	㊶ N
	㉕ ② 生活の心配などで落着いて訓練を受けてもらえない。	Y ㊶
適 性	⑲ 現在の訓練職種は自分に適していると思う。	㊶ N
	⑮ ⑤ 自分の選んだ訓練職種に好意をもてない。	Y ㊶
そ の 他	㉓ 前職と現在の訓練での仕事となんら関係はない。	㊶ N
	㉕ ② 職業訓練に入ってよかったと思っている。	㊶ N

表 3

NAME Y . O 氏	KŌ 長野技専	KUMI 機 械	TOSHI 4 9	GAKUREKI 旧高小		No	
-----------------	------------	-------------	--------------	-----------------	--	----	--

GAKUSHU KONNAN	
• プレスをやっていたので機械に対するコワサはなかった。機械はあつかっていても旋盤は全々違うので操作は見ようみまねで対処した。 バイトをとぐことなどはやったことがなかったのでもう少し時間をかけてほしい。 • 旋盤の送り目盛を使わないで、ノギスでばかり測定して苦労した。 • 中高年者は人生の先が短かいのだから、とことん徹底した技術をひとつ、身につけたほうがよいと思う。今はいろいろの機械をやっているが、これでは深くならない。ある程度、深くやって体でおぼえてしまいたい。 • 1/100の寸法をだすのは疲れる。プレスでは細かい測定はいらないので、最初に100分代で測ったときにはマイクロを使うのがたいへんだった。	

SHOKUREKI プレス工	SEIKATSU JŌKYO	V.T E NO YŌBŌ
-------------------	----------------	---------------

質 問 項 目		回 答
全般的な 学習上の 苦 勞	⑳ 訓練上、学ぶことでなにかと苦勞している。	(訓練受講上の苦勞)
	㉔ 先生方に学習上の苦勞をへらすために指導の工夫をしている点がある。	(中高年指導の工夫)
	㉑ 仕事をおぼえる上で、手指や視力のおおろなどのために苦勞している。	(機能低下と学習上の苦勞)
	㉒ 日頃の訓練で、疲れを感じることが多い。	(疲勞の訴え)
実技場面	㉓ 今までの経験が現在の訓練に結びついていて、仕事がおぼえやすい。	(学習の転移)
	㉑ 前職の経験が現在の訓練上の仕事をおぼえるのに邪魔になる。	(学習干渉)
	㉒ 先生に教えられたこと以上のことを自分でやろうとする傾向がある。	(作業への積極性)
	㉑ ガンコな点があり、教師の指導のとおり作業をやらないう傾向がある。	(思考の固さ)
	㉑ 作業に対して、強い緊張を感じたり、不安を抱くことがある。	(過度の緊張)
	㉑ 同年輩グループだと安心して作業できるが、若い者の中ではかたくなる。	(同一年齢グループでの安心)
	㉑ 若年者と中高年者との混合訓練は不適當である。	(混合訓練の不適當)
	㉑ 失敗などとして一度つまづくと心のバランスをくずし、おろおろすることがある。	(失敗による判断欠如)
	㉑ 実習や試験で自分のできばえがとても気になる。	(自己評価の傾向)
	㉑ 作業のできばえについてすぐに知らせてもらいたい。	(即KRの必要性)
	㉑ 質問をするのはどうもいやである。	(質問の嫌悪性)
	㉑ 数学など長時間、学習をしていない内容には不安が大きい。	(学習離れと不安)
学科場面	㉑ 公式・記号をおぼえるのがにがてである。	(記憶力の欠如)
	㉑ 専門用語など納得がいかないと前に進む気がしない。	(専門用語への固執)
	㉑ 学科のとき、その場でわかったつもりでも、その後の試験で若い者より悪い。	(理解力)
	㉑ 訓練には熱心にとりくんでいる。	(訓練への熱意)
レディネス	㉑ 訓練を受ける前の、学力など準備不足を感じている。	(レディネスの欠如)
	㉑ 生活の心配などで落着いて訓練を受けてもらえない。	(学習への生活不安定の影響)
	㉑ 現在の訓練職種は自分に適していると思う。	(訓練職種への適合性)
適 性	㉑ 自分の選んだ訓練職種に好意をもてない。	(訓練職種への関心)
	㉑ 前職と現在の訓練での仕事となんら関係はない。	(前職と関連性)
そ の 他	㉑ 職業訓練に入ってよかったと思っている。	(訓練に入っている満足)

表 4

NAME	S . T 氏	KŌ	KUMI	TOSHI	GAKUREKI
		長野技専	建 築	5 6	旧高小

SHOKUREKI	
S18<型枠加工>→S52<停年>	
SEIKATSU JŌKYO	
V.T E NO YŌBŌ	修了してすぐに生活できる給与をもらえぬ就職口がない。今まで給与の3分の1になる。1人前とはいかなくても8割ぐらいの仕事はできると思うのだが…。

GAKUSHU KONNAN
• 若い頃から大工になりたいと思っていたので建築科に入った。入ってみたところ、思っていたのとは全々違っていた。若い訓練生は本当の子供で勉強のジャマになる。 • (年をとって)われわれの頭になると、どうしても1年ではたりない。本当なら2年勉強したい。 • 力学は全々、今までにやったことがないし、力のモーメントといわれてもわからない。別に一級技能士を取る気はないのだからいいのではないか。 • 自分で極く必要と思うことをおぼえていく。設計・見積・積算など、この仕事をするのに、何ができるのか、いろいろあるか、わからないところもある。 • 実技はある程度自信がある。先生が本当に手をとるように教えてくれる。 • 疲れるということはない。ただ、なれないためか、このような勉強をやったことがないので精神的に疲れる。なんとかして追いついていきたいという、あせりで、夜、フトンに入ってもすぐに寝れない。年をとっているから、短い期間におぼえてしまおうと、あせる気持ちが強い。今までは、夜、寝汗などかいたことはなかったが、汗をかく。

区分	質問項目	回答
全般的な学習上の苦	⑳ 訓練上、学ぶことになにかと苦勞している。	(訓練受講上の苦勞)
	㉔ 先生方に学習上の苦勞をへらすために指導の工夫をしてももらいたい点がある。	(中高年指導の工夫)
	㉑ 仕事をおぼえる上で、手指や視力のおとろえなどのために苦勞している。	(機能低下と学習上の苦勞)
	㉒ 日頃の訓練で、疲れを感じることが多い。	(疲勞の訴え)
実技場面	㉓ 今までの経験が現在の訓練に結びついていてるので仕事がおぼえやすい。	(学習の転移)
	㉔ 前職の経験が現在の訓練上の仕事をおぼえるのに邪魔になる。	(学習干渉)
	㉑ 先生に教えられたこと以上のことを自分でやろうとする傾向がある。	(作業への積極性)
	㉒ ガンコな点があり、教師の指導のとおり作業をやらないう傾向がある。	(思考の固さ)
	㉑ 作業に対して、強い緊張を感じたり、不安を抱くことがある。	(過度の緊張)
	㉒ 同年代のグループだと安心して作業できるが、若い者の中ではかたくなる。	(同年代グループでの安心)
	㉑ 若年者と中高年者との混合訓練は不適當である。	(混合訓練の不適當)
	㉒ 失敗などして一度つまづくと心のバランスをくずし、おろおろすることがある。	(失敗による判断欠如)
	㉑ 実習や試験で自分のできばえがとてにも気になる。	(自己評価の傾向)
	㉒ 作業のできばえについてすぐに知らせてもらいたい。	(即KRの必要性)
学科場面	㉑ 質問するのはどうもいやである。	(質問の嫌悪性)
	㉒ 数学など長時間、学習をしていなかった内容には不安が大きい。	(学習離れと不安)
	㉑ 公式・記号をおぼえるのががてである。	(記憶力の欠如)
	㉒ 専門用語など納得がいかないと前に進む気がしない。	(専門用語への固執)
	㉑ 学科のとき、その場でわかったつもりでも、その後の試験で若い者より悪い。	(理解力)
レデネス	㉑ 訓練には熱心にとりくんでいる。	(訓練への熱意)
	㉒ 訓練を受ける前の、学力など準備不足を感じている。	(レデネスの欠如)
適性	㉑ 生活の心配などで落着いて訓練を受けてもらえない。	(学習への生活不安定の影響)
	㉒ 現在の訓練職種は自分に適していると思う。	(訓練職種への適合性)
その他	㉑ 自分の選んだ訓練職種に好意をもてない。	(訓練職種への関心)
	㉑ 前職と現在の訓練での仕事となら関係はない。	(前職と関連性)
	㉒ 職業訓練に入ってよかったと思っている。	(訓練に入ってから満足)

付表 5 40 歳以上訓練生の回答傾向

N=91

項 目	質 問 項 目	頻 数 %		
		YES	id	NO
全般的な 学習上の 苦 労	②③ 訓練上、学ぶこととでなにかと苦労している。	60.4	2.2	37.4
	②④ 先生方に学習上の苦労をへらすために指導の工夫をしてももらいたい点がある。	56.0	4.4	39.6
	① 仕事を覚え上手で手指や視力のおおろえなどのために苦労している。	47.3	1.1	62.6
	⑬ 日頃の訓練で疲れを感じることが多い。	26.1	1.1	72.5
実技場面	③ 今までの経験が現在の訓練に結びついていてるので仕事がおぼえやすい。	31.9	2.2	65.9
	② 前職の経験が現在の訓練上の仕事をおぼえらるのに邪魔になる。	3.3	1.1	95.6
	⑫ 先生に教えられたこと以上のことを自分でやろうとする傾向がある。	28.6	2.2	69.2
	⑪ ガンコな点があり、教師の指導のとおり作業をやらないう傾向がある。	11.0	1.1	29.7
	⑦ 作業に対して強い緊張を感じたり、不安を抱くことがある。	41.8		58.2
	⑨ 同年輩グループだと安心して作業できるが、若い者のなかではかたくなる。	17.6	1.1	81.3
	②② 若年者と中高年者との混合訓練は不適當である。	50.5	2.2	47.3
	⑧ 失敗などして一度つまずくと心のバランスをくずし、おろおろすることがある。	34.1	1.1	64.8
	⑭ 実習や試験で自分のできばえがとてども気になる。	68.1	1.1	30.8
	⑯ 作業のできばえについてすぐに知らせてもらいたい。	69.2	3.3	27.5
	⑬ 質問をするのはどうもいやである。	13.2		86.8
学科場面	⑩ 数学など長期間学習していなかった内容には不安が大きい。	69.2	1.1	29.7
	④ 公式・記号をおぼえられないのがてである。	61.5	4.4	34.1
	⑥ 専門用語など納得がいかないと前に進む気がしない。	63.7	3.3	33.3
	⑤ 科学のとき、その場でわかつたつもりでも、その後の試験で若い者より悪い。	74.7	5.5	18.7
学 習 の 構 造	⑬ 訓練には熱心にとりくんでいる。	96.7	1.1	2.2
	②① 訓練を受ける前の学力など準備不足を感じている。	64.8	1.1	34.1
	②⑤ 生活の心配などで落着いて訓練を受けてもらえない。	11.0	1.1	87.9
	⑬ 現在の訓練職種は自分に適していると思う。	63.7	5.5	30.8
適 性	⑮ 自分の選んだ訓練職種に好意をもてない。	16.5	2.2	81.3
	②⑧ 前職と現在の訓練での仕事となんら関係ない。	64.8	2.2	33.3
そ の 他	②⑤ 職業訓練に入ってよかつたと思っている。	92.3	1.1	6.6
	②⑤ 職業訓練に入っていない。			

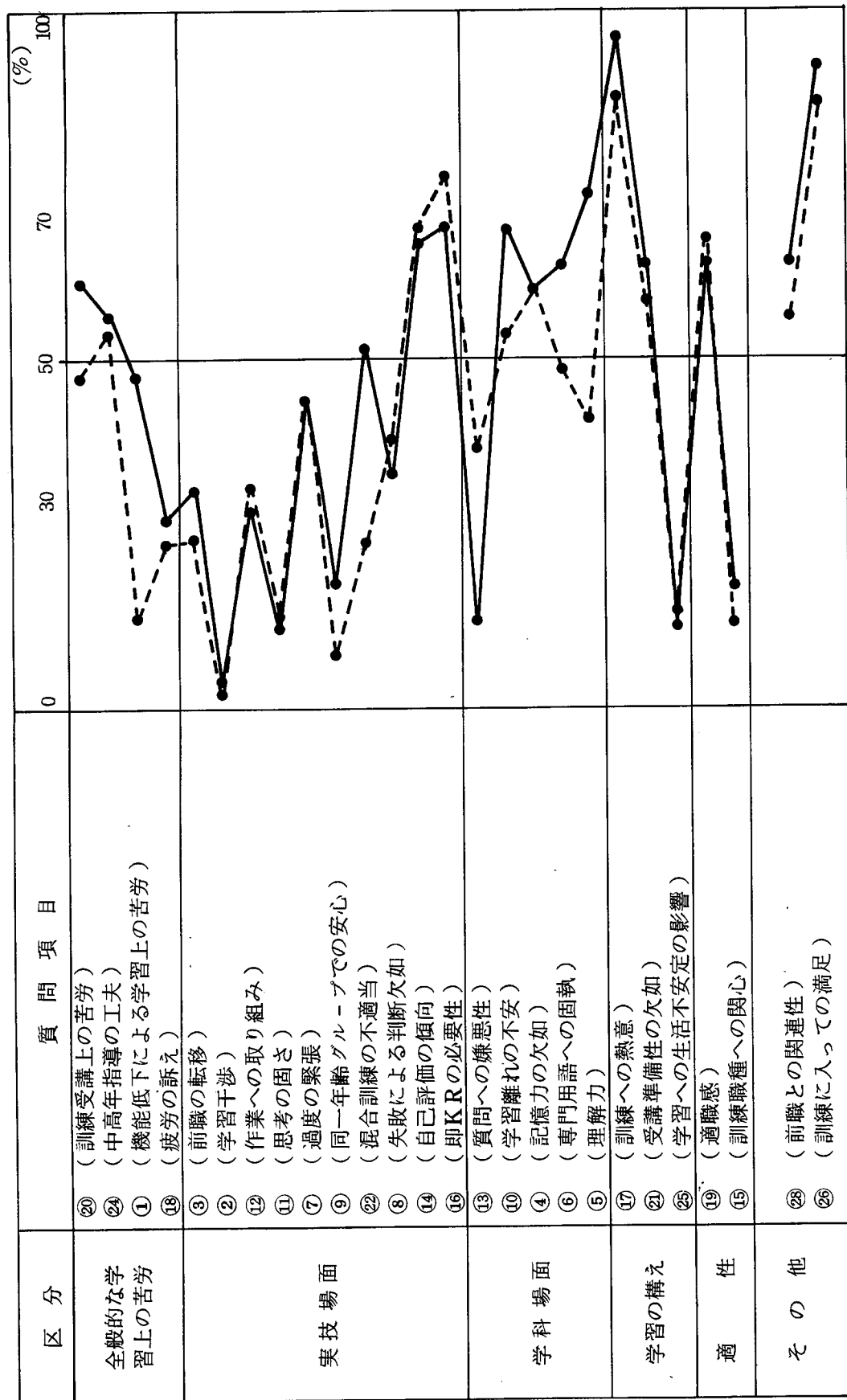
付表 6 39歳以下訓練生の回答傾向

N=81

区分	質問項目	頻数 %		
		YES	id	NO
全般的な学習上の苦	②⑩ 訓練上、学ぶことになにかと苦労している。	48.1		51.9
	②④ 先生方に学習上の苦労をへらすために指導の工夫をしてももらいたい点がある。	54.3	3.7	42.0
	① 仕事を覚ええうえで手指や視力のおとろえなどのために苦労している。	13.6		87.7
	⑬ 日頃の訓練で疲れを感じることが多い。	33.3		66.7
実技場面	③ 今までの経験が現在の訓練に結びついていてるので仕事がおぼえやすい。	34.6	7.4	58.0
	② 前職の経験が現在の訓練上の仕事をおぼええるのに邪魔になる。	2.5	7.4	90.1
	⑫ 先生に教えられたこと以上のことを自分でやろうとする傾向がある。	32.1		67.9
	⑪ ガンコな点があり、教師の指導のとおりには作業をやらない傾向がある。	13.6	2.5	84.0
	⑦ 作業に対して強い緊張を感じたり、不安を抱くことがある。	43.2		56.8
	⑨ 同年輩グループだと安心して作業できるが、若い者の中ではかたくなる。	7.4	9.9	82.7
	②② 若年者と中高年者との混合訓練は不適當である。	23.5	3.7	72.8
	⑧ 失敗などして一度つまづくと心のバランスをくずし、おろおろすることがある。	39.5		60.5
	⑭ 実習や試験で自分のできばえがとてにも気になる。	67.9	1.2	30.9
	⑯ 作業のできばえについてすぐに知らせてもらいたい。	76.5		23.5
学科場面	⑬ 質問をするのはどうもいやである。	37.0	1.2	61.7
	⑩ 数学など長期間学習していないが不安が大きい。	54.3	3.7	42.0
	④ 公式・記号をおぼえるのがにがてである。	60.5		39.5
	⑥ 専門用語など納得がいかなかったり前に進む気がしない。	49.3	1.2	49.3
	⑤ 学科のとき、その場でわかったつもりでも、その後の試験で若い者より悪い。	42.0	11.1	46.9
学習の構え	⑬ 訓練には熱心にとりくんでいる。	87.7	2.5	9.9
	②④ 訓練を受ける前の学力など準備不足を感じている。	59.2	1.2	39.5
	②⑤ 生活の心配などで落着いて訓練を受けてもらえない。	13.6		87.7
適性	⑬ 現在の訓練職種は自分に適していると思う。	66.7	7.4	26.0
	⑮ 自分の選んだ訓練職種に好意をもてない。	12.3	3.7	84.0
その他	②⑨ 前職と現在の訓練での仕事となんら関係はない。	55.6	8.6	35.8
	②⑥ 職業訓練に入ってよかったと思っている。	87.7	5.0	8.6

付表 7 中高年訓練生と若年訓練生との学習困難点の比較

● 40歳以上訓練生
● 39歳以下訓練生



付表 8 訓練科別 40 歳以上訓練生の回答傾向

(%)

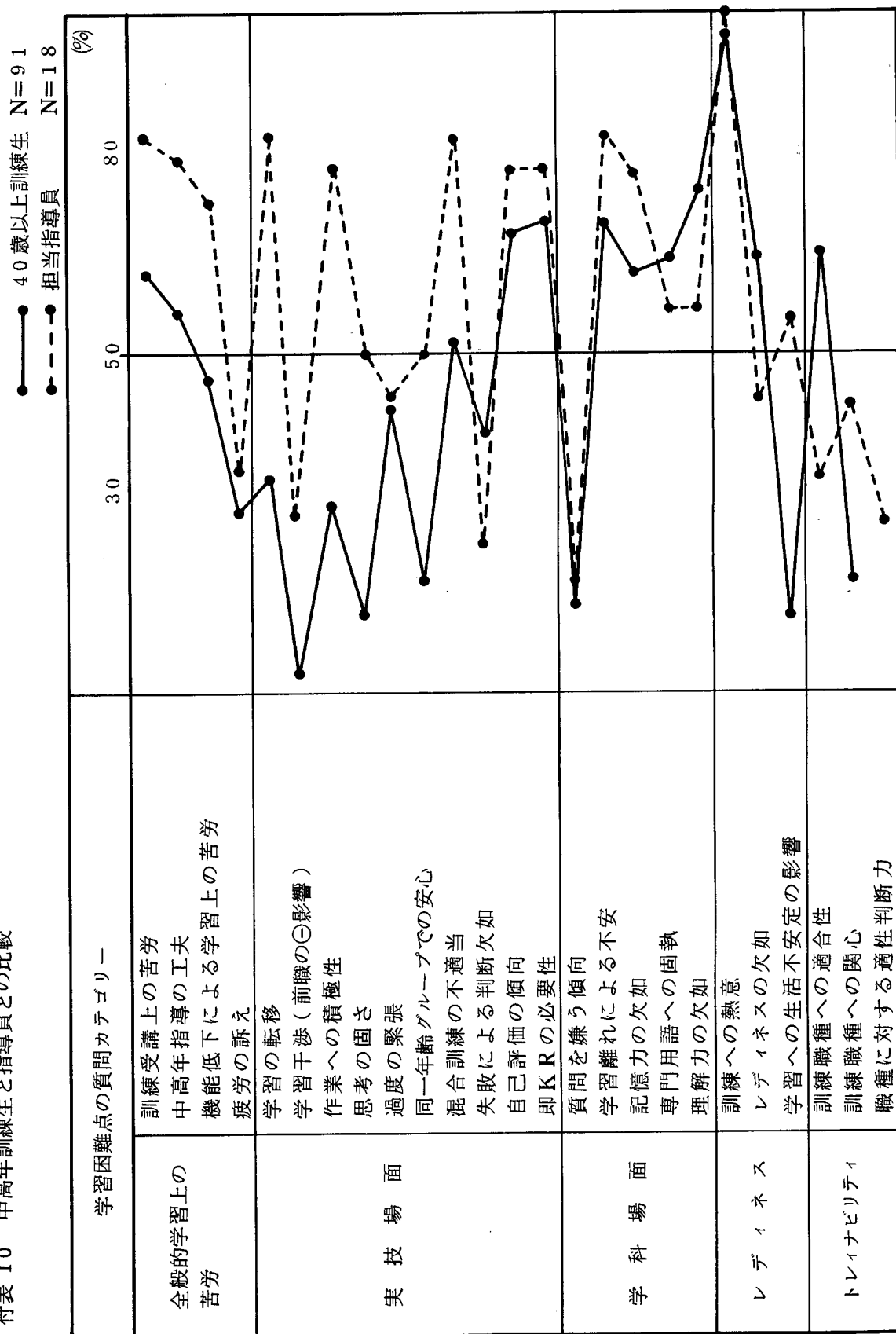
区分	質 問 項 目	HiG				O ブロック	HAN 木工	S 溶接	N	HiTa	S54 溶接	M 54			
		自整	塗装	機組	溶接	家電						経理	建築	左官	溶接
全般	②⑩ (訓練受講上の苦勞)	50.0	66.7	66.7	100.0	57.1	33.3	60.0	70.0	50.0	50.0	100.0	66.7	37.5	71.4
	②④ (中高年指導の工夫)	75.0	33.3	66.7	33.3	85.7	55.6	80.0	60.0	100.0	25.0	0	33.4	25.0	57.1
	① (機能低下による学習上の苦勞)	50.0	0	0	33.3	57.1	66.7	50.0	40.0	33.3	50.0	50.0	83.3	25.0	42.9
	⑩⑨ (疲勞の訴え)	50.0	33.3	0	16.7	0	11.1	30.0	40.0	16.7	25.0	50.0	33.4	50.0	14.3
実技	③ (前職の転移)	75.0	0	33.3	33.3	57.1	22.2	40.0	40.0	16.7	50.0	50.0	0	12.5	42.9
	② (学習干渉)	0	0	0	0	0	0	0	0	16.7	25.0	0	0	12.5	0
	⑫ (作業への取り組み)	25.0	0	33.3	0	28.6	33.3	50.0	20.0	50.0	0	0	0	37.5	71.4
	⑪ (思考の固さ)	25.0	0	0	0	0	0	20.0	20.0	0	25.0	0	0	12.5	28.6
	⑦ (過度の緊張)	25.0	33.3	0	66.7	28.6	55.6	30.0	50.0	50.0	75.0	50.0	50.0	12.5	42.9
	⑨ (同一年齢グループでの安心)	25.0	0	0	16.7	14.3	11.1	20.0	30.0	16.7	25.0	50.0	0	25.0	14.3
	②② (混合訓練の不適當)	25.0	66.7	100.0	33.3	0	33.3	90.0	60.0	33.3	50.0	50.0	0	37.5	71.4
	⑧ (失敗による判断欠如)	25.0	33.3	0	16.7	28.6	33.3	40.0	40.0	33.3	50.0	50.0	50.0	25.0	28.6
	⑭ (自己評価の傾向)	75.0	66.7	33.3	100.0	71.4	55.6	60.0	50.0	83.3	75.0	50.0	83.3	62.5	85.7
	⑩⑥ (即KRの必要性)	75.0	66.7	33.3	100.0	57.1	66.7	80.0	60.0	100.0	50.0	50.0	16.7	87.5	85.7
	⑬ (質問への嫌悪性)	25.0	0	0	0	28.6	0	20.0	40.0	0	25.0	0	0	12.5	14.3
	⑩⑨ (学習離れの不安)	25.0	66.7	100.0	83.3	57.3	33.3	90.0	70.0	66.7	50.0	50.0	100.0	62.5	85.7
学科	④ (記憶力の欠如)	25.0	66.7	33.3	66.7	57.1	33.3	80.0	70.0	33.3	50.0	100.0	100.0	25.0	57.1
	⑥ (専門用語への固執)	50.0	33.3	66.7	83.3	85.1	88.9	70.0	60.0	66.7	50.0	50.0	50.0	25.0	71.4
	⑤ (理解力)	50.0	33.3	100.0	83.3	57.1	55.6	90.0	90.0	83.3	75.0	100.0	100.0	50.0	71.4
構え	⑪⑦ (訓練への熱意)	100.0	100.0	100.0	100.0	85.7	100.0	100.0	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0	87.5	100.0
	②④ (受講準備性の欠如)	75.0	33.3	66.7	66.7	57.1	11.1	80.0	90.0	50.0	75.0	100.0	83.3	50.0	71.4
適性	②⑤ (学習への生活不安定の影響)	25.0	0	0	16.7	14.3	0	20.0	10.0	0	25.0	0	16.7	0	0
	⑩⑨ (適職感)	100.0	100.0	0	83.3	85.7	88.9	20.0	60.0	33.3	100.0	50.0	33.4	87.5	85.7
その他	⑩⑤ (訓練職種への関心)	0	33.3	0	16.7	14.3	0	70.0	10.0	0	25.0	0	16.7	12.5	0
	②⑧ (前職との関連性)	50.0	100.0	66.7	66.7	42.9	55.6	60.0	50.0	100.0	75.0	50.0	100.0	62.5	28.6
	②⑥ (訓練に入ってからでの満足)	75.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	80.0	80.0	83.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

付表9 担当指導員からみた学習困難点

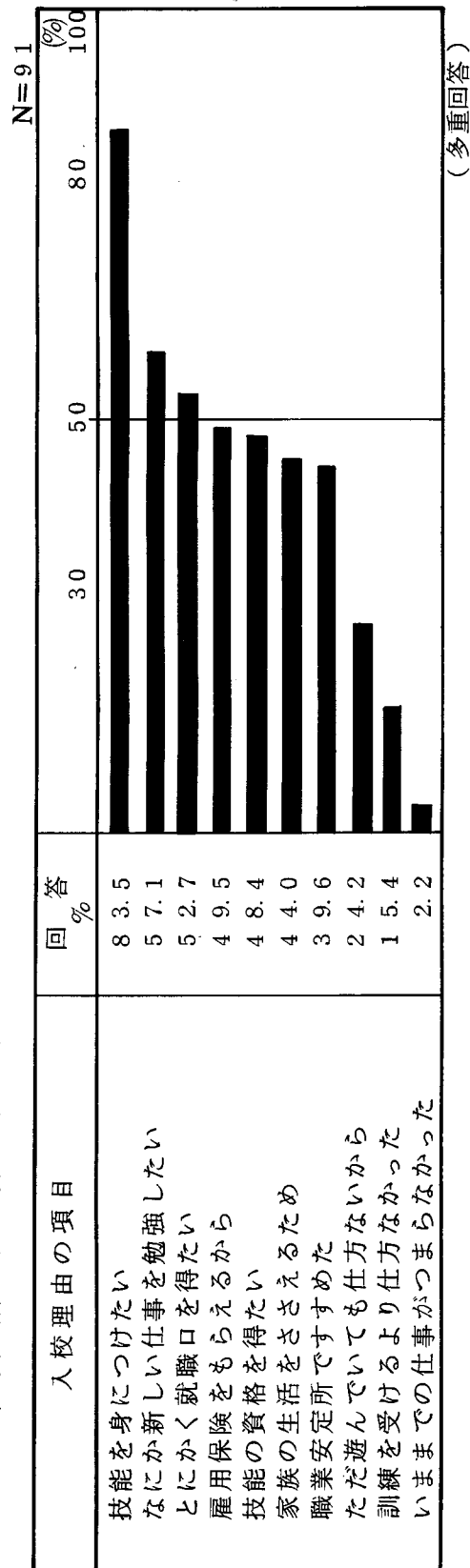
N=18

区分	質問項目		頻数 %	
			YES	NO
全般的な 学習上の 苦 労	②③ 若年層にくらべて中高年層は訓練を受ける上で苦勞している。	(訓練受講上の苦勞)	83.3	11.1
	②④ 中高年者指導にあたって学習上の苦勞をへらすために何らかの工夫をしている。	(中高年指導の工夫)	77.8	16.7
	① 実技面で身体的機能の低下が学習上の苦勞にあらわれている。	(機能低下と学習上の苦勞)	72.2	27.8
	①⑧ 中高年者は疲れを訴えることが多い。	(疲勞の訴え)	33.3	66.7
実技場面	③ 今までの経験が現訓練に結びついて学習が促進されている。	(学習の転移)	83.3	16.7
	② 前職の経験が現訓練での習得を邪魔している。	(学習干渉)	27.8	72.2
	②⑩ 教えた以上のことを自分でやろうとする。	(作業への取り組み)	77.8	22.2
	⑪ ～、教師の指導の通りに作業をやらないう傾向がある。	(思考の固さ)	50.0	50.0
	⑦ 作業に対して過度の緊張感をともなう場合が多い。	(過度の緊張)	44.4	55.6
	⑨ ～、同一年齢グループであると安心して作業している。	(同一年齢グループでの安心)	50.0	33.3
	②② 若年者と中高年者との混合訓練は不適當であると思う。	(混合訓練への不適當)	83.3	16.7
	⑧ 作業時におろおろする人が多い。	(失敗による判断欠如)	22.2	72.2
	⑭ 若年者より自分のできばえを気にする傾向がある。	(自己評価の傾向)	77.8	16.7
	⑮ 中高年者には特に作業のできばえを即答する必要がある。	(即KRの必要性)	77.8	22.2
学科場面	⑬ 中高年者は若年者よりも質問するのを嫌う傾向がある。	(質問の嫌悪性)	16.7	83.3
	⑩ 数学など長期間学習をしていなかった内容には不安が大さい。	(学習難れと不安)	83.3	5.6
	④ おぼえが悪い。特に、公式・記号をおぼえることが不得意である。	(記憶力の欠如)	72.2	22.2
	⑥ 専門用語にこだわらる。納得がいかないと前に進もうとしない。	(専門用語への固執)	55.6	38.9
	⑤ 学科でその場での理解はよいが、その後の試験では若い者より悪い。	(理解力)	55.6	27.8
準備性	⑬ 若年層にくらべて中高年者は訓練に対して熱心である。	(訓練への熱意)	100.0	
	②① 中高年者は学力不足など訓練を受ける準備性がかけている。	(準備性の欠如)	44.4	44.4
	②⑤ 生活に対する不安定が訓練受講に悪影響をあたえている人が多い。	(学習への生活不安定の影響)	55.6	38.9
適性	⑬ その人に適した職種の訓練を受けている人が多い。	(訓練職種への適合性)	27.8	66.7
	⑬ 訓練職種に対して、訓練生本人が好意的でない人がある。	(訓練職種への関心)	44.4	50.0
	②③ 選んだ訓練職種でやっていけると判断する能力をもっている。	(職種に対する適性判断力)	27.7	50.0

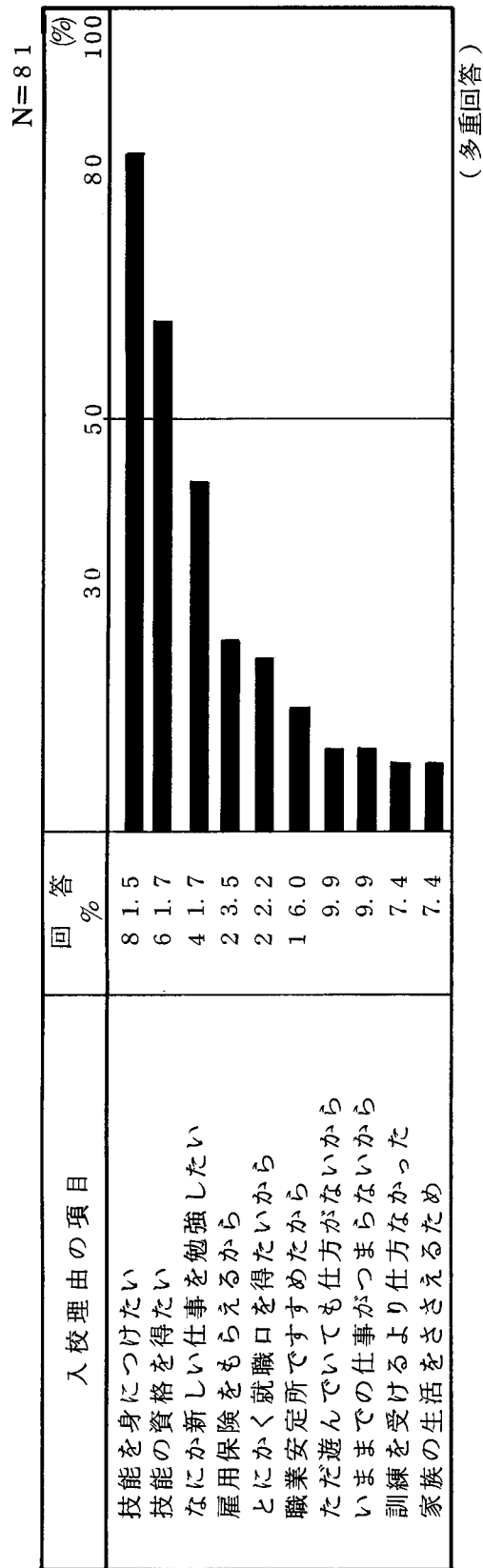
付表 10 中高年訓練生と指導員との比較



付表 11-1 中高年訓練生（40歳以上）の入校理由



付表 11-2 40歳以下の訓練生の入校理由



付表 12 訓練クラス別 入校理由 (40 歳以上訓練生)

(%)

質 問 項 目	HiG				O ブロック	HA 木工	S 溶接	N	HiT	S 54 溶接	M 54		
	自整	塗装	機組	溶接	家電						経理	建築	左官
① とにかく就職口を得たいから	25.0	66.7	100.0	83.3	28.6	71.4	60.0	30.0	50.0	50.0		50.0	25.0
② なにか新しい仕事の勉強がしたい	50.0	66.7	66.7	83.3	42.9	71.4	60.0	30.0	33.3	50.0	100.0	16.7	62.5
③ 訓練を受けるより仕方なかった			33.3		14.3	28.6	20.0	20.0	33.3			50.0	12.5
④ 職業安定所ですすめられた		66.7	33.3		14.3	14.3	60.0	40.0	50.0	25.0	50.0	83.3	87.5
⑤ 雇用保険がもらえるから	25.0	33.3	100.0		57.3	85.7	80.0	40.0	16.7		50.0	83.3	75.0
⑥ 技能を身につけたいから	75.0	66.7	66.7	100.0	100.0	100.0	50.0	80.0	83.3	100.0		66.7	87.5
⑦ 技能の資格を得たいから	75.0	66.7		83.3	71.4	71.4	60.0	50.0	33.3	50.0			37.5
⑧ ただ遊んでいても仕方ないから	25.0		66.7	16.7			30.0	20.0	66.7		50.0	33.3	50.0
⑨ 家庭の生活をささえるため		33.3	66.7	33.3	14.3	57.1	70.0	50.0	33.3	25.0		50.0	50.0
⑩ いままでの仕事がつまらないから	25.0				14.3								

表 13 指導員側の中高年訓練生の教え方の工夫点

授業の段階	工夫している事項
a、学習準備の段階	1. 中高年者であることをあまり意識させないようにする。
b、説明・指示の段階	1. 言葉づかいは人格を傷つけないようにする。 2. 実際に作り上げる製品を示して、全体の出来上り像を頭に描かせてから作業に取りかかるようにする。
c、授業展開の段階	1. 職業経験、体得している技能をもつ、中高年者のよさを生かす。 2. 訓練生同志の研究を大切にする。 3. 中高年者の身体的機能にあわせて、技能を教える。 4. 頭でおぼえるのではなく、身体でおぼえられるようにする。 5. 学習の進度はなるべく個別にして、気長に待つ心構えが必要である。 6. 中高年者には必要最少限度のことを教える。 7. 指導員チームの意志統一をする。
d、学習確認の段階	1. 中高年者はよく質問をする、その特徴を生かして授業をする。 2. 作業の出来ばえについて、なんらかの評価をすることが必要である。

I 指導員からみた中高年者指導の工夫

a、学習準備段階	1. 中高年者であるということをあまり意識させないようにする。
b、作業説明の段階	1. 言葉づかいは人格を傷つけないようにする。
	2. 実際に作り上げる製品を示して、全体の出来あがり像を頭に描かせてから作業に取りかかるようにする。
c、作業練習の段階	1. 職業経験をもっている中高年者のよさを生かす。

- もう年だからダメだという意識にならないようにすることが大切である。
動機づけがうまくいけばその後は若年者よりうまくいく。それまでもっていくのに教師側の苦勞が多い。（O、ブロック建築）（M、溶接）

- 高齢者に対して指導員たる前に人生における先輩であることを認識し、言葉づかいなどに気をつけて、相手の気持を尊重する態度でのぞむ。そうでないと思わぬところでつまづくことになる。指導する場合の言葉（立場上使用する言葉）と学習に直接関係ない場合の言葉（日常対話）とは気をつけて極く自然に使いわけができるようにする。（M、溶接）
- 養成訓練生に対するように“こうやりなさい”“こら、／”とかは言えない。
数度にわたって同じことを注意すると、“そんなに注意されなくてもよいのだ”という態度がはっきり出てくる場合があった。（S、溶接）

- 製品をぶらさげておいて、この製品を作るためには、ここからこのようにするというふうにもっていく。（HT、溶接）
- 実際に家を建てている現場に行って、その内容を授業にとり入れるとのみこみがはやい。
黒板に図解して“ここはこうなっている”と言うよりも実際の建物を自分の目でみて、“こうだ”と言うのが一番はやい。中高年者は親類や近所に手伝いに行った経験もあるので、道具などの理解ははやい。（N、建築）
- 単に言葉だけの説明の学習ではなく、実物観察から進めて学科に入るべきと考えている。（HG、自動車整備）

- たとえ職種は違っても社会に出ていた違いが、中高年者と養成訓練生とは明確にあらわれる。若い者は10を10、教えなければならないが、中高年者は10を9に教え、中を1つ飛ばしてもよい場合がある。例えば、割付けにおいてサンガネの使い方を教えるとき、中高年者はサンガネ自体は大抵の人が知っている。若い者はそれすら知らない。また、訓練の中段階に入ると、中を3つも4つも抜かしても理解してもらえるのでその辺は楽である。
社会に出て見たり聞いたりして、その職種自体の経験はないけれども何ものかが積み重なっている。（O、ブロック建築）

	2. 訓練生同志の研究を大切にする。
	3. 中高年者の身体的機能にあわせて技能を教える。
	4. 頭でおぼえるのではなく、身体でおぼえられるようにする。
	5. 学習の進度はなるべく個別にして、気長に待つ心構えが必要である。
	6. 中高年者には必要最少限度のことを教える。

最初は指導員がやってみる。そして、訓練生グループで相談しながらやることをすすめる。例えば、色ものの配合のときは“自分の好みのようにやってみなさい”と指示して一つのグループで話し合いながら学習させる。（HT、塗装）
- 中高年者には作業の裏を教えて、はやく実際の作業ができるようにする。 若い者には標準的な方法で苦勞しておぼえさせる。 例えば、カンナの研ぎ方を教える場合、ト石に直角にあてて研ぐと刃が丸くなる傾向が強い。若者には直角にあてて研ぐことを繰返し練習させ、その後に、傾めにして研ぐ方法を教える。しかし、中高年者には、はじめから、傾めにしてト石に刃先をあてる方法を教えている。（HA、木工） （カンドころ（急所）はその人がおぼえた方法でしか教えられないのではないかという意見もある。） - 作業姿勢をとる場合、指導員の指示に無理にしたがわせても姿勢はうまくならない。標準的な姿勢を示して、“これに近い姿勢にしてください”と指示する。ある程度、中高年者自身が自分なりに考える要件を残すことが大切である。（HA、木工）
- 中高年者は物をつくる過程での学制的要素はよくおぼえる。頭でおぼえるのではなく、身体でおぼえられるようにしている。 記憶のわるさを補うために、あらかじめ、メモをあたえて、3日ぐらい期間をおいて実技を教えていく工夫もしている。（HT、溶接） - それほど多くの作業要素ではないが、先生が生徒の手をもって教えることを大切にしている。例えば、ヤスリかけのような場合、言葉や絵、VTRでしめしても力の配分、速度の加減をおぼえることができない。
- 高齢者になればなるほど個人差が大きいゆえに、個別訓練を必要とする。（HG、自動車整備） - 教育効果を急がず、気長に待つ心構えが必要となる。「押しつけ的」、「命令的」学習方法からは知識促進は図れない。（HG、自動車整備） （個別にしない方がよいこともある）今はこの人はもう少しやらないとダメであると思っても“今日はこれでやめて次に進んでください”と言うこともある。 学習の遅れをとりもどすには、特定の個人だけをやらせるのではなく、もう一度、全員にやらせるような配慮も必要である。
中高年者は習得速度もおそいのだから、あれもこれも教えたのでは迷ってしまう。必要な最少限度のことを教える。

	7. 指導員チームの意志統一をする。
d、学習効果の確認段階	1. 中高年者はよく質問をする。その特長を生かして授業をする。
	2. 作業のできばえについて、なんらかの評価をすることが必要である。

- 先生間での、あらかじめの話し合いが充分におこなわれていない。バラバラであると自分好みの指導員に訓練生がついてしまい、他の指導員のいうことは聞かなくなるケースもある。(M、溶接)

- 中高年者は質問をよくする。若い者は質問をあまりしない。中高年者は先生との対話をしたいという気持が強い。かたい雰囲気、授業方式を嫌い、先生と話しながら授業を進めたいという気持がある。(N、機械)
- 中高年者は養成訓練生にくらべて質問をよくする。予備知識をもっている人はそれをさらに追求しようとする姿勢をとる。特に、現場関係の前職の人は質問の回数が多い。質問の質をみると、事務系の人は今、訓練を受けている基本的なことを聞く。一方、溶接を含む現場経験者は以前に仕事をやっていて疑問に思っていたことについて聞く。
(授業中)話を聞いているうちに、“あのことはどうなのだろう”と気づくらしい。そこで授業とは関係あるかどうか意識せずに、わからないから、すぐに聞いてみるという行動をとる。それらの質問内容は、指導員側から言えば、“そんなことはどうでも”というものもある。しかし、中高年者にとってみれば、(すぐ質問することで)記憶しにくいことをカバーし、自分の経験に結びつけられる範囲から学び取って着実なものにしようとする。例えば、“先生、交流と言っているけれど、交流で何よ、／”と言う。原型を知りたい気持から質問がでてくるようである。(M、溶接)
- 中高年者は若い者より質問が多い。若い者より知りたいという気持は強く、いろいろの質問をする。訓練生の中には建築についてよく知っている人もいる。基本訓練の過程でも自分の経験を含めて、“こういう時はどうするか”という質問がでてくる。ひとつひとつの質問の質が深い。(O、ブロック建築)

- 大人といえども作業のできばえがよかったときはほめた方がよい。今まで、“こうした方がよい、ああした方がよい”という指示の方が多かった。ほめるのはおせじのようでいやであった。しかし、最近、気づいたことはほめるタイミングはむしろ嬉しいがほめた方がよい。(O、ブロック建築)
- 若年者より中高年者は自分の作業のできばえを気にする。周囲の人をおたがいに気にしている。若年訓練生と一緒に訓練を受けているとよけいにできぶりを気にする。(O、ブロック建築)
- 中高年者は作業結果を気にする傾向がある。特に、実技の場合、きれいにできているかどうかはすぐに周囲の人にわかる。応用実習になると、グループ作業になるので、作業のできばえを気にするということはない。できる人はどんどん先に進んで、できない人はそれについていくことになる。(S、溶接)

--	--

- 実習において、できたものをならべてみせるが、それぞれ“よくできた、ここはいけない”などと批判しあっている。（N・ブロック建築）
- 養成訓練生と一緒に訓練を受けている場合は、同様のミスをしたとき、中高年生は叱らないで養成生を叱るようにしている。そうすると、中高年生ははずかしそうな顔をしている。このように間接的に叱る方がよい。大人のプライドをきずつけないようにする。年輩者でもほめられる方がうれしい。
- 高年齢者にあっては、無差別に「誤り」を単に伝えるのではなく、どこが誤っているかを指摘する必要がある。なぜならば、かれらは解決可能な問題であっても自信喪失から問題を解こうとしないからである。（HG、自動車整備）
- 作業のできばえを能開生は相当に気にする。インテリアの場合、その傾向は木工よりも強い。木工は溝をほったり、見えないところがうまくできないと、出来あがったものが、うまくない。全工程ができばえに関係する。
インテリアでは床をはったり、壁をはったりするので表面的なあらわれで良否がすぐにわかる。訓練生がみても、“あそこがわるい”ということがすぐにわかる。
現場でやってきた人よりも管理職にいた人の方が出来ばえを気にする程度が強い。（HA、木工）

表 14 中高年訓練生の“教え方”の工夫への要望

授業の段階	要 望 事 項
a、学習準備段階	1. 勉強の仕方など学び方の準備をする期間がほしい。 2. 英語や専門用語を用いるときは、受講者の学習準備性を調べてそれを配慮してほしい。 3. 体力の回復、および仲間との人間関係をよくする機会がほしい。 4. 落ち着いて学習できる雰囲気をつくってほしい。そのために、若年者との混在訓練はさけてほしい。
b、説明・指示の段階	1. 作業の手順など口頭で説明するのみでなく、手引書・印刷物を渡してほしい。 2. 作業を説明するとき、見るべきポイントを明確に教示してほしい。 3. 最終の作業目標なり、完成品を示してから作業の説明をしてほしい。
c、授業展開の段階	1. 中高年者はカン（勘）が悪くなっている。ゆえに、勘で学ぶものは別の尺度に置換えてほしい。 2. 実際の現場で役立つような基礎的な実技を中心にしてほしい。 3. 基礎的な関連知識は抜けなく教えてほしい。 4. 学科はさらに重点的な内容に限定してほしい。 5. 学科と実技との対応をもっと明確にしてほしい。 6. 中高年者の特性（“気働き”）にあった教え方を工夫してほしい。
d、学習確認の段階	1. 質問のできるような雰囲気を作ってほしい。

Ⅱ 中高年訓練生からの指導上の工夫に対する要望

a、学習準備段階	1. 勉強の仕方など学び方の準備をする期間がほしい。
	2. 英語や専門用語を用いるときは、受講者の学習準備性を調べて、それを配慮してほしい。
	3. 体力の回復、および仲間との人間関係をよくする機会がほしい。
	4. 落ち着いて学習できる雰囲気をつくってほしい。 そのために若年者との混在訓練はさけてほしい。
b、作業説明の段階	1. 作業の手順などは口頭で説明するのみでなく、手引書、印刷物を渡してほしい。
	2. 作業を説明するとき、見るべきポイントを明確に教示してほしい。
	3. 最終の作業目標なり、完成品を示してから作業の説明をしてほしい。

- ・ 入校直後は勉強といっても、なぜか自分でまとめられなかった。最近はまとめ方、勉強の仕方をおぼえてひとつひとつまとめておぼえられるようになってきた。(N、電工)
- ・ われわれの学んだ時と勉強の仕方も違っているし、中学をでてから長年たっているのも、大分苦勞であった。(S、溶接)

- ・ ローマ字をかかれても一際わからない。私にわかるようにくだけて教えてほしい。いきなり、英語で黒板にかかれてもわからないので、カナで書いて口頭で言ってほしい。授業中、教科書を読まされても英語やローマ字は読めないのも、格好が悪い。それでローマ字や化学記号には家でカナをつけてくるようにはしているが…。(N、機械)

- ・ 訓練入校1ヶ月間、体育の時間があつたがこれはよかった。体力の回復と仲間との人間関係がよくなる。実習場とは違った人間関係を作ることができるし、チームワークもよくなる。体育の時間をもっと多くしてほしい。(HT、ブロック建築)

- ・ 訓練校に入ってみて、はじめのうちはよかったが自分の子供のような訓練生と一緒になので話があわなくて、4ヶ月頃中退しようかと思った。(その理由は)若い訓練生はふざけ半分で教室を飛んで歩いている。先生が注意してもきかない。製図のときなど、老眼鏡でみながら苦勞して書いているのに、周囲でワアワアさわがれるので頭がガンガンしてしまう。なぐりつけてやりたいと思ったこともあるが、そうもいかないのもこんなことがストレスとなる。そして、学習意欲もなくなる。(N、機械)

- ・ 機械の操作など、機械ごとに手引書をつけておいてほしい。なるべく、先生に質問しにいかなくてすむようにしてほしい。(N、機械)

- ・ “見ていなさい”と指示して、機械の操作を説明するが、(訓練生にしてみれば)どこを見てよいのかわからない。(HG、機械)

- ・ 現在は材料が渡されて“こうするのだ”ということで先生が手本をみせてくれる。ところが最終の目標、できあがったとき、こうなるという目標があたえられないので、どうもよくわからない。(HA、木工)

c、作業練習の段階	1. 中高年者はカン（勘）が悪くなっている。ゆえに、勘で学ぶものは別の尺度に置換えて教えてほしい。
	2. 実際の現場で役立つような基礎的な実技を中心にしてほしい。
	3. 基礎的な関連知識は抜けなく、教えてほしい。
	4. 学科はさらに重点的な内容に限定してほしい。

- 溶接法を教えてもらうとき、“これが1mm”と示し、数值的に教えてくれるとよい。今はすべてカンである。若いうちはカンによって教えてもよいかもしれないが、50代になってからはカンより数値で教えてもらいたい。また、電流をきめる場合でも、カンにうったえておぼえるのではなく、“この鉄板は何mmだから何ボルトにするとよい”と幾回も教えてくれれば馬鹿のひとつおぼえのようにおぼえられる。ひとつおぼえれば、これを基準にして社会的経験で調節することもできる。現在のように、“うまい火花ができればよい”という指導法ではつかみどころがない。

こうすれば、うまくできるという勘所を探すヒントをたくさん入れてほしい。仕事を科学的に分析して、カンのみでおぼえなくてもよいようにしてほしい。(S、溶接)

- 溶接訓練の内容は技能検定向けに組まれている。それで、“実際の現場ではこのような作業はほとんどないよ”と言うのではこまる。溶接の基礎をしっかりとってほしい。例えば、アークを発生させるのに、どんな電流でも思うように自由にできるようになれることをのぞむ。(HG、溶接)

- 訓練期間が6ヶ月なために、先生がはしょって教えているような気がする。結局、丸暗気することになる。基礎的な関連知識がぬけてしまうのでわかりにくくなる。現在は、すぐに仕事にとびこんでいけることを目標にしているが、学校なのだから実習はともかくとして、理屈をしっかりとっておぼえたい。例えば適切な溶接棒をどのように選ぶか、どんな電流で溶接するかなど。これから勉強していくのに必要な基礎知識を教えてほしい。(M、溶接)

- 学科はもっと重点的なことだけでよいと思う。これから設計したりするわけではないから、(下っ端の労働者なのだから)専門の実技だけでよい。ゆえに、学科は、どんな溶接のとき、どんな溶接棒を使うのがよいか、その程度でよい。(S、溶接)
- 学科の中には、おぼえておいて損ということはないであろうが、これから再び社会に出て必要にせまられるということはないだろう。もっと実務面に力を入れてもらって時間をとってもらう方が助かる。機械工作法などは実務に直結しているからよいが、力学、機械材料などは直接のかかわりがない。実務に役立たないから、全く頭に入らない。

(N、機械)

	5. 学科と実技との対応をもっと明確につけてほしい。
	6. 中高年者の特性にあった教え方を工夫してほしい。
	7. 先生方の教え方を統一してほしい。
d、作業確認の段階	1. 質問のできるような雰囲気を作ってほしい。

- 実習とつながりのあるものは、学科でもわかりやすい。また、実習と理論とのつながりとしての実験のようなものを入れてほしい。例えば電気など回路を示してくれるとよいと思う。(HG、電子)
- 実習において今日やったことを続けて明日やるということにはなっていない。この現在の教え方は問題がある。1つの課題は続けて実施し、それが終了したら次の課題にうつってほしい。(HT、ブロック建築)

- 指導方法は若い者に集約されて一本化されているので、中高年者には希望がもてなくなる。中高年者には「気働き」を中心にした指導方法にしてほしい。私は「気働き」と「力働き」とに分けて考えている。若者は頭がよくても若さの体力とエネルギーを使う。年をとってくると、人の使い方、社会的な気の使い方など「気働き」が中心になる。私としても「力働き」は今後ムリで「気働き」が中心になる。「気働き」をいかせるような訓練にしてみようと中高年者が生きる道が出てくるであろう。(S、溶接)

- 先生によって教え方が違っている。実習中、ある先生がまわって来たらその先生の方法、他の先生がまわって来たらその先生の方法というような、気をつかって実習をやらねばならない。(HT、ブロック建築)

- 年をとっているから、先生が一度説明したことを2度も3度も聞きにくい。“こんなことをまた聞いてよいものか”という気持がいつも働いている。現在は、周囲にいる機械作業経験者に聞いたり、見よう見まねで学んでいる。(N、機械)
- 専門的な内容を進めているときに、基本的なことに関する質問はしにくい。(HG、電子)
- クラスの人々のレベルが高いせいか、簡単に説明して、後で質問を受けるとことが多い。しかし、質問をどのようにしてよいのかわからない場合が多い。(HG、電子)